

年末年始に心臓死が増加するのは寒さが原因ではなかった

クリスマス休暇（12月25日から1月7日）に心臓血管死が増加する「クリスマスホリデー効果」は米国で報告されたものであった。本研究では、その効果が寒い季節と関係しているのかを検討するため、クリスマス休暇が夏季にあるニュージーランドにおいてマッチング分析を実施した。

ニュージーランドの25年間のデータについて、過去の研究と同様の手法で分析した。73万8,000件の死亡が確認され、うちおよそ19万7,000件が心臓関連死であった。南半球においてもクリスマス休暇中は他の期間と比べて心臓血管死が多く認められ、イベント発生率が4.2%上昇するたびに、毎年4人が新たに死亡した。

したがって、年末年始において心臓血管死が増える原因は冬の寒さではなく、期間そのものであることが示された。

出典：Journal of the American Heart Association. 2016; 5(12); pii: 005098